

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

May 2019 vol.61

May						
S	M	T	W	T	F	S
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

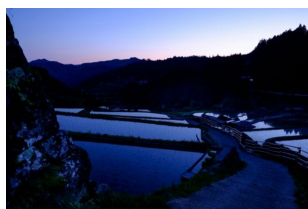
◆ 山崩遭難供養塔

所在地：新城市四谷

交通：豊鉄バス田口線「滝上」停 北東 約 3km

新城市四谷の千枚田は、日本の棚田百選にも選ばれる700年以上の歴史を持つ棚田です。標高883mの鞍掛山の南西の斜面に、標高220m付近から420m付近にかけて、階段状に広がるこの棚田は石垣で形作られており、まさに日本の原風景に出会うことができます。家屋も石積みの土地に建てられ、鞍掛山から湧き出る水が石積みの水路を流れ、その独特の石垣風景は、夏から秋はもちろん、冬の雪景色も壮観です。（四谷の千枚田について、詳しくは新城市 HP (<http://www.city.shinshiro.lg.jp/index.cfm/8,46205,149,722,html>) などをご覧ください。地元の鞍掛山麓千枚田保存会が毎月発行している「千枚田だより」も掲載されています。）

今日この素晴らしい風景を形作っている千枚田ですが、過去には悲惨な災害に見舞われた歴史があります。明治37（1904）年7月10日、田植えが終わった頃から20日余りも降り続いた長雨（短期的に3日ほど続いた大雨との説もあります）と台風により、鞍掛山に隣接する通称・貧乏山で大規模な山津波（山崩れ）



四谷の千枚田
キラッと奥三河観光ナビより

が発生します。山津波は人々や馬、民家を飲み込みながら沢に沿って約600m下方まで流出し、死者11名、家屋10戸と馬2頭が流出、沢沿いの棚田はすべて崩壊するという大惨事となります。

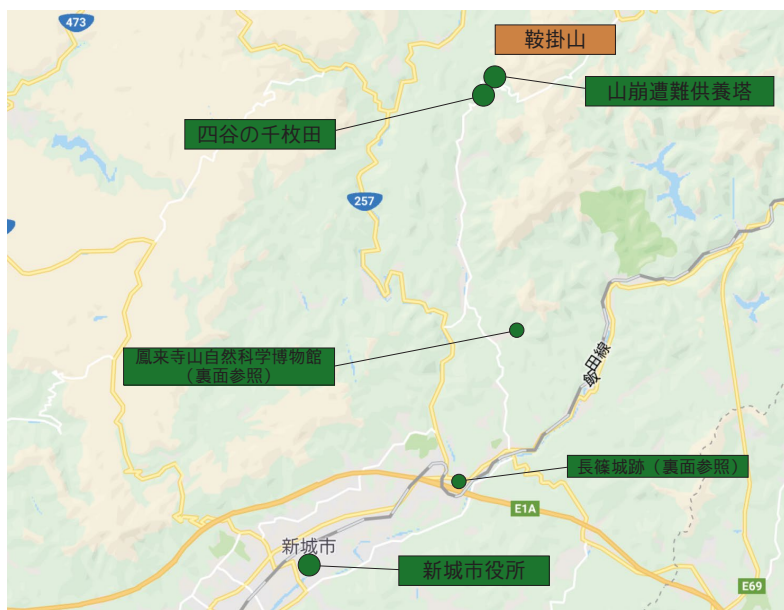
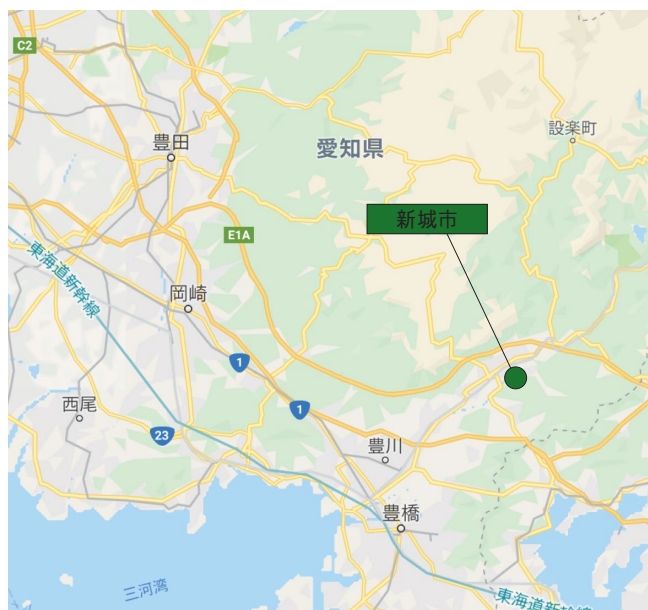
途方に暮れた集落の人々でしたが、美しい棚田を取り戻すべくすぐさま立ち上がります。ブルドーザーやユンボなどの重機もなく、またコンクリートもない時代に、流れ落ちてきた石を人力で積み直し、モッコに土を入れて運び、地道に耕して、幾年もかけて見事な石垣の千枚田を復興させたのです。

山津波により犠牲になった方々の霊は、鞍掛山のカシャゲ峠に供養されています。カシャゲ峠は、かつては信州へ向かう伊奈街道の峠で、現在では鞍掛山を登る東海自然歩道が整備されており、歩道の途中に山崩遭難供養塔が安置されています。塔は昭和31（1956）年に地元有志により建立されたもので、碑文には「字鞍掛飛渡ヨリ山崩」とあり、犠牲となった11名の名前が記されています。

復興を遂げた四谷の千枚田は、昭和46（1971）年には1,296枚の棚田が連なるまさに千枚田でしたが、国の減反政策と高度成長によって、平成元年には373枚まで減少してしまいました。その後、保存会が発足し、保全活動が活発化し、現在は420枚まで回復しています。



山崩遭難供養塔
<https://ymwanderer.exblog.jp/27318541/> より



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していたくとも、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆山崩遭難供養塔の周辺には…

●^{だいとくじ}大徳寺

所在地：新城市富栄字大貝津

交通：JR 飯田線「三河大野」駅 南 約 800m

鳳来町誌には、元和年間（1615－1624）に整備された本堂諸施設が、明治 22 年に大地震



※にあったことが記されています。（※：周辺の市町村誌も参考にすると、明治 24 年の濃尾地震のことと考えられます。）

●^{きよみね}清嶺小学校（旧清崎小学校）

所在地：北設楽郡設楽町清崎

交通：JR 飯田線「大海」駅 北 約 20km



昭和 19（1944）年昭和東南海地震では、清崎小学校の新校舎前にあったプラタナスの根元に割れ目が生ずるほどのすごさであったといえます。現在小学校は合併により、清嶺小学校と名を変えています。



● 島田陣屋遺跡

所在地：新城市野田字西郷（現在は埋め戻され見ることはできません）

1992 年 9 月～12 月に発掘された遺跡です。戦国期から近世の遺構のほか、弥生時代の遺構が見つっています。この遺跡では、地震痕跡として、かなり古い時期の地震活動によると思われる噴砂が見つっています。

◆詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をご覧ください。

★長篠合戦のぼりまつり

長篠の戦いは、武田信玄の子・勝頼が率いる 1 万数千の武田軍と織田・徳川軍の長篠城を巡る戦いで、織田・徳川方の長篠城主・奥平貞昌はわずか 5 千の兵で攻撃に堪え、密使として活躍した鳥居強右衛門の活躍などにより、のちに 3 万を超える援軍を送った織田・徳川方が圧勝しました。



Aichi Now HP より

長篠合戦のぼりまつりは、戦いで犠牲になった両軍の将士の霊を慰めるために、関係する将士の紋入りののぼり数千本を献植して行うまつりで、毎年 5 月 5 日に開催されます。まつりでは、式典・法要のほか、両軍の将士に扮した合戦行列、鉄砲隊による火縄銃の演武、勇壮な長篠陣太鼓など様々なイベントが盛大に行われます。

あいちの農産物

^{やなまる}八名丸さといもは、旧八名郡八名村（現在の新城市一畝田）が発祥とされるさといもで、愛知の伝統野菜です。発祥地の地名と丸い形からこの名がつけました。



愛知県園芸農産課 HP より

9 月から 3 月までが旬で、肉質は柔らかく粘りが強く、味・食感ともに優れています。煮物やおでんなどのほか、皮ごと茹でて味噌や生姜醤油をつけて食べる「キヌカツギ」にも向いています。

●ブレイクタイム●

♪ 鳳来寺山自然科学博物館

鳳来寺山自然科学博物館は、昭和 38 年に愛知県内初の公立の自然博物館として開館しました。鳳来寺山を中心とした、地域の岩石標本などの地質展示や、地域に生息する動物や植物、きのこなどが展示されており、館内では長篠地区の中央構造線露頭のレプリカ（現物は長篠城址の西すぐ）も見ることができます。また、中庭では生きたコノハズクも見学できます。（開館時間は午前 9 時から午後 5 時、休館日は火曜日・年末年始）



新城市 HP より

◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減災の会、名古屋大学減災連携研究センター、令和元年 5 月）